

ある日の育児日記から

(77)

佐藤 和代



有が赤ちゃんのときからお世話になっている、保育園のK先生。年中組でも持ち上がりで担任になり、K先生が好きなのは大喜びです。でもある日、有は、家に帰ってくるなりしみじみした口調で言うのです。「K先生ね、結婚するんだって。私が単純にはしゃいで、「わー、それはよかったわねー」と言うと、有はちょっとすねたように「でもね、ゆうとじゃ、ないんだよ」…一瞬、絶句した私。う、ここで笑っちゃいけない。親のデリカシーが試される時だわ。適切な言葉を探したけれど見つからず、「そうかあ、残念だった

ねー」なんて言ってしまった。意味なかったかしら。

それにしても、保母さんっていう仕事、いいなあ。こんなかわいいおむこさん志願者にかまれて仕事していたら、幸せだろうな。

有のクラスメイトのお母さんにそんな話をしたら、そのお母さんは言いました。「うちの子がね、『K先生、また恋人とけんかしたんだって、もう婚約、解消しちゃうかもよー』なんて言うのよ。子どものいるところではんかの話なんかすると、全部親につつぬけだつてわかってるのかな」。

あはは、K先生、お氣を つけて下さいね。どうぞお 幸せに！

